

2016 年度学会彙報

1. 総務報告

出席者 6 名（委任状 40 名） 定足数を越え、総会が成立した。

- ・総務報告（会員異動状況）が報告された。
- ・2015 年度決算報告、事業報告が承認された。
- ・2016 年度予算案、事業計画案が審議され、承認された。
- ・定款の改正が審議され、承認された。
- ・新役員案が審議され、承認された。

2. 第 9 回大会報告

日時：2016 年 9 月 2 日（金）13:00～17:30

場所：室蘭工業大学教育・研究 1 号館 C 棟 1 階 C107 教室

参加者：10 名

プログラム：

- 13:00～13:05 開会あいさつ
- 13:10～14:10 講演「上方落語と都々逸と音声学」福盛貴弘
- 14:20～15:05 シリングワ「モンゴル語スヌト方言における音声学的アクセントの研究—実験音声学的アプローチ—」
- 15:15～16:00 島田武「北海道道南方言における入りわたり鼻音について」
- 16:10～16:55 池田潤「ヘブライ文字黙読課題による事象関連電位再考」
- 17:00～17:30 会員総会
- 18:30～ 懇親会

3. 理事会報告

第 1 回理事会報告

出席者：城生会長、池田理事、三浦理事、島田理事、福盛監事、永井監事（委任状 1 名）

日時：2016 年 7 月 30 日（土）17:00～18:30

場所：城生会長、池田理事、三浦理事、島田理事、福盛監事、永井監事（委任状 1 名）

- ・役員改選について審議した。
- ・定款の改正について審議した。
- ・第 9 回大会について審議した。
- ・2015 年度決算について審議した。
- ・2016 年度予算案について審議した。
- ・2016 年度事業計画および総会について審議した。
- ・会員の異動、会計監査報告が行なわれた。
- ・編集委員会からの報告が行なわれた。

第2回理事会報告

出席者：池田会長、三浦理事、高村理事、島田理事、福盛理事、岡田監事、菅井監事、城生顧問（委任状2名）

日時：2017年3月18日 15:00-17:00

場所：大東文化会館 K-403 教室

- ・第10回大会について審議した。
- ・当日までの会員の異動が報告された。
- ・当日までの会計が報告された。
- ・編集委員会からの報告が行なわれた。

4. 編集委員会報告

出席者：島田武（委員長）、乾秀行、菅井康祐、宇都木昭

日時：適宜

場所：メール会議

- ・第9回大会に関して、匿名査読（2名）の結果、講演1件、発表3件が採択された。

出席者：高村めぐみ（委員長）、宇都木昭、高慧禎、田川拓海

日時：適宜

場所：メール会議

- ・REPL9号は「城生先生古希記念論集号」であり、実験に拠らない研究成果についても受け付けた。
- ・古希記念論文には10件の応募があり、匿名査読（2名）の結果、論文10件が採択された。また、一般の投稿論文には2件（うち1件は講演論文）の応募があり、匿名査読（2名）の結果、論文2件（うち1件は講演論文）が採択された。

* 第10回大会（創立10周年記念大会）

2017年8月に専修大学での開催を予定しています。

* 会費納入のお願い

正会員の方は、年度内に年会費2,000円を下記の口座に納入してください。

ゆうちょ銀行

口座番号 00120-9-262862

口座名義 日本実験言語学会

<他銀行から振り込まれる方>

銀行名：ゆうちょ銀行

支店名：〇一九（ゼロイチキュウ）店

支店番号：019

口座番号：当座 0262862

役員名簿

会 長	池田 潤 (会計)
副会長	三浦 弘 (広報)
理 事	福盛 貴弘 (事務局)
理 事	高村めぐみ (編集)
理 事	島田 武
理 事	永井 正勝
監 事	岡田あずさ
監 事	菅井 康祐
顧 問	城生佰太郎

日本実験言語学会 総会資料

日時：2016年9月2日（金）17:00～17:30

場所：室蘭工業大学教育・研究1号館C棟1階C107教室

1. 総務報告

会員異動状況

会員の種別	会員数		増減数
	2014年度末 2015年3月31日現在	2015年度末 2016年3月31日現在	
正会員 (うち学生)	60 (19)	62 (20)	2 (1)
賛助会員	3	2	▲1
合計	63	64	1

2. 2015年度事業報告

日時：2015年8月8日（土）13:00～17:30

場所：筑波大学 人文社会学系棟 A101 会議室

参加者：30名

プログラム：

13:00～13:05 会長あいさつ

13:10～14:10 ワークショップ「形態素処理における理論研究と事象関連電位による実験のインタラクション」福盛貴弘、田川拓海、石田尊

14:20～15:05 岡田あずさ「英語学習者の感嘆文イントネーションの知覚と産出に関する考察」

15:15～16:00 丸島歩「韓国人日本語学習者音声の時間的特徴とその速度感」

16:10～16:55 桐越舞「短歌の言語リズムの諸特徴」

17:10～17:30 会員総会

18:30～ 懇親会

(2) 学会誌の刊行

『実験音声学・言語学研究』（英文名：Research in Experimental Phonetics and Linguistics）第8号 2016年3月24日

論文1点

(3) 役員会

第1回理事会報告

出席者：城生会長、池田理事、三浦理事、島田理事（委任状1名）

日時：2015年7月18日（土）15:00～17:00

場所：筑波大学 文科系修士棟 A409号室

- ・第8回大会について審議した。
- ・2014年度決算について審議した。
- ・2015年度予算案について審議した。
- ・2015年度事業計画および総会について審議した。
- ・会員の異動、会計監査報告が行なわれた。
- ・編集委員会からの報告が行なわれた。

第2回理事会報告

出席者：城生会長、池田理事、島田理事、高村理事、福盛監事、永井監事（委任状1名）

日時：2016年3月18日 16:30～18:00

場所：大東文化会館 K-401 教室

- ・第9回大会について審議した。
- ・当日までの会員の異動が報告された。
- ・当日までの会計が報告された。
- ・編集委員会からの報告が行なわれた。

編集委員会

出席者：島田武（委員長）、乾秀行、菅井康祐、宇都木昭

日時：適宜

場所：メール会議

- ・第8回大会に関して、匿名査読（2名）の結果、ワークショップ1件、発表3件が採択された。

出席者：島田武（委員長）、乾秀行、菅井康祐、宇都木昭

日時：適宜

場所：メール会議

- ・REPL8号に関して、論文2件の応募があり、匿名査読（2名）の結果、論文1件が採択された。

(4) その他

JELS 通信 No.26～31 を会員に送信した。

3. 2015 年度決算報告

	項目	金額	備考
収入	前年度繰越金	105,220	
	正会員会費	72,000	(正会員 36 名分)
	賛助会員会費	0	
	入会金	8,000	
	大会参加費等	0	
	計	185,220	

	項目	金額	備考
支出	大会運営費	4,911	(茶菓、スタッフ弁当など)
	広告費	8,088	(ポスター作成、レンタルサーバーなど)
	郵送費	0	
	人件費	20,000	(バイト代)
	消耗品費	313	
	印刷費	0	
	予備費	0	
	繰越金	151,908	2016 年度へ繰り越し
	計	185,220	

4. 監査報告

5. 2016 年度事業計画

(1) 第 9 回大会開催

日時：2016 年 9 月 2 日（金）13:00～17:30

場所：室蘭工業大学 教育・研究 1 号館 C 棟 1 階 C107 教室

口頭発表 3 件、講演 1 件

(2) 学会誌の刊行

- ・『実験音声学・言語学研究』第 9 号を刊行する。
- ・原稿締め切り 9 月末日。

(3) 役員会

- ・理事会を年 2 回、編集委員会を随時開催する。

5. 2016 年度予算案

収入

項目	金額	備考
会費	60,000	
入会金	0	
大会参加費等	0	
前年度繰越金	151,908	
計	211,908	

支出

項目	金額	備考
大会運営費	25,000	(会場費、茶菓)
広告費	20,000	(ポスター作成、ドメイン・レンタルサーバ経費)
郵送費	25,000	
人件費	30,000	(アルバイト代)
消耗品費	5,000	
印刷費	3,000	
予備費	103,908	(創立 10 周年記念大会積立等)
計	211,908	

6. 定款の改正

- ・ 第 13 条、第 14 条の修正案 (別紙 1)

7. 役員等の選出

- ・ 理事
- ・ 会長、副会長
- ・ 監事
- ・ 顧問
- ・ 編集委員長、広報委員長

編集後記

『実験音声学・言語学研究』第9号をお届けいたします。今号は、城生佰太郎先生の古希記念論集ということで、実験によらない研究成果についても受け付けました。古希記念論文10編、一般投稿論文1編、講演論文1編が寄稿されています。ご高覧いただければ幸いに存じます。

まず、福盛貴弘氏による「上方落語『刻うどん』における都都逸—歌わない都都逸の韻律節—」では、歌わない都都逸は、大韻律節、中韻律節、小韻律節と3つに分類される韻律節の中でも、中韻律節を繰り返していると述べられています。また、定型の音数律である韻文という点で、俳句や短歌と同じカテゴリーに属すると考えられる都都逸ですが、ポーズの挿入の点では大きな相違が見られると論考しています。また、『時そば』と『刻うどん』の違いを「都都逸が含まれることによる理屈っぽさ」という観点から述べられているところは、日本語の韻律論のみならず談話論というより大きい範囲での研究への展望が期待されると言えましょう。

次に、シリングワ氏による「モンゴル語スヌト方言における音声学的アクセントの研究—実験音声学的アプローチ—」では、従来、主張されてきたモンゴル語のアクセントは、常に語の第一音節に強さが置かれるという定説では説明できない部分があるため、音節数、音節の種類、音節構造の3つの点で修正すべき箇所があると論じています。特に、これまで重視されていた強さではなく、高さに注目することによってアクセントに備わっている社会習慣的なパターンについても論じているところは、今後、モンゴル人に対する日本語教育、あるいは、日本人に対するモンゴル語教育への示唆ともなる論文であると言えましょう。

さて、今号は城生先生の古希記念論集です。構音障害、ヘブライ語、フィールドワークとタイトルを見てお分かりのように、多種多様な内容の論文10編が寄稿され、掲載することができました。言語学は、音声学、社会学、心理学、歴史学など、多くの隣接分野を持つ学問です。今号にもさまざまな分野の論文が掲載されました。様々な分野でご活躍される読者の皆様の刺激となればと思います。

最後に一言。私が今、研究者として、教員として、そして、日本実験言語学会の編集委員長という大役を務めさせていただいているのは、修士時代に城生先生との出会いがあったからに他なりません。ここに改めて感謝の意を表すとともに、お祝いの言葉を述べさせていただきたいと思います。

(M.T.)

実験音声学・言語学研究 (Research in Experimental Phonetics and Linguistics) 第9号

発行者：日本実験言語学会

〒305-8571 つくば市天王台 1-1-1 筑波大学文芸・言語専攻内池田潤研究室気付

電話・ファクス 029-853-4410

jelsoffice@gmail.com

<http://www.jels.info/index.html>

編集委員：高村めぐみ（編集委員長）、宇都木昭、高慧禎、田川拓海

2017年3月24日刊行

ISSN 1883-6763